

課題名 建築アイデアコンテスト

指導教員 片渕 和啓

参加コンペ名 高校生建築アイデアコンテスト 2013

課題 カラダにいい家

主催 国士舘大学理工学部 建築学系主催

審査員 国士舘大学理工学部・建築学系 全教員

#### 研究の目的

医療費が増大する現代社会において、家族がいつまでも健康に暮らせる家とはなにかを考察する。

作品名 明鏡止水

#### コンセプト

人は物事について考えるとき、表面的なことにしか目がいかない。それは対象が自分自身の健康であっても変わることはない。この場合の表面というのは身体面に該当している。その一方で精神面での健康について常日頃から気にかけることはあるだろうか。いやおそらくはないだろう。そこで私は心の健康とは何かを考え、それが得ることができる住宅を提案したい。

心が健康になるために、人は「落ち着く」時間を大切にすべきだと考えた。私は「落ち着き」を得ることができる空間の設計には「和」「静」「温」の3要素であると思いきや、まず「和」は日本ということ、また馴染むということの意味を持つ。様々な文化が私たちの生活に入り込む現代では、再び自国の文化が見直されている。なぜならばそこには私たちにとって本当に必要な精神が存在するためだ。それこそが「和」である。次に「静」は文字通りしずかという意味と、もう一つ静止即ち、止まっている状態も表す。静かで、淀むことなく時間が止まっているような空間では私たちは自分自身を見直すことが可能である。そのような空間を形作るために私は人が集まる空間又人通りが多い空間と個人的な空間を隔離することが重要だと考えた。逆の例を取ると、廊下がなく居室と居室を緩やかに繋げるとお互いの気配を感じ取れる代わりに「静」が失われてしまう懸念がある。そこで家の中心に廊下を設置しその廊下を居室間の緩衝材として利用し居室の「静」が損なわれないようにした。最後に「温」は「和」に通じる箇所でもあるが、日本人が遥か昔から共に歴史を築いてきたとも言っても過言ではない存在「木」を表す。木の持つ温もりは人を今まで惹きつけてきた。他の素材では出すことができない温かさは心への安らぎとして欠かすことはできない。

